

「理解」「定着」「応用」、学習には3つの段階がある

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。今年の10月下旬で、開倫塾は、27年目を迎えました。

なぜ開倫塾という学習塾を創設したかといえますと、塾生の皆さんに、学校の成績を上げたり、希望校へ進学したりしていただきたいのはもちろんのこと、この教育サービスを通して一生使える自分なりの勉強方法を身に付けていただきたいと考えたからです。その思いで、この27年間ずっと学習塾を運営してきました。できれば、「開倫塾の時間」をお聴きの皆さんにも、この放送を通してご自分なりの勉強方法を身に付けていただき、これからの人生にいくらかでもお役立ていただきたいと思います。

私は、学習には3つの段階があると考えています。「うん、なるほど」と「理解」する段階。そして、それを身に付ける段階。私はこれを「定着」とよんでいます。さらに「定着」させたものを、実際の試験等で使い合格点を取る・社会に出て役立てる「応用」の段階。この3つの段階です。皆さんも、勉強についての自分なりの考え、どのようにして新しいものごとを身に付けたいのかということについての考えをまとめて、できるだけその通りに進めていくと、同じ勉強をした場合でも、学習効果は何十倍も違ってくると思います。

塾生の皆さん一人ひとりに「うん、なるほど」と理解してもらうために、開倫塾の先生方も努力をしています。開倫塾では、一人ひとりの顔を思い浮かべながら、この授業をどのように展開したら最も効果が上がるかを考え、「レッスンプラン」を立てます。学校の先生は、これを「教案」といっています。開倫塾の先生は、1つ1つのレッスン・授業についてのプラン・計画を頭の中で立て、それをペーパーに記してその通りにやっています。塾生に「うん、なるほど」と理解してもらうためには、教える側も相当努力をしなければいけないと考えているからです。あらゆる先生方、例えば踊りの先生、お花の先生、お料理の先生など、先生と呼ばれる方は誰も、今日は何をどのように教えようかと綿密な計画を立て、「うん、なるほど」と分かってもらえるような教え方をしていると思います。

ただ、いくら先生が意気込んでも、教わる側の生徒・学生の準備ができていなければ、よい効果を上げることはできません。では、どのようなことをすればよいかといえ、1語1句メモを取る

ことです。ただし、教科書に書いてある事柄についてはメモを取る必要はありません。メモを取らない時は、先生の顔をじっと見ながらこれはどんなことが「うん、なるほど」と腑に落ちるまで真剣に先生の説明を聴く。そして、教科書とは違う形で説明している時はメモを取るようにするとよいでしょう。

授業中に居眠りやおしゃべりをしていたのでは、学習内容が身に付きません。また、教科書やノート・筆記用具の忘れ物、これは刀を持たずに決闘に臨むのと同じですから、決してしないことです。

次の「定着」ですが、学校の先生や塾の先生、習い事の先生などは、十分な時間がとれなくて、一人ひとりに「定着」させるまではなかなかできません。1度や2度は、このようにやったらよいと例題を示してくれるかもしれませんが、十分にはできません。よって、皆さんは宿題という形でそれをやらなければなりません。このとき、先生に言われたからやるのではなく、自分からするという気持ちを持つことが大切です。「うん、なるほど」と「理解」したことも時間の経過と共に忘れてしまいますから、真剣に復習をして覚え込むことが大切です。スラスラと口をついて出るようにする、楷書で書けるようにするのは、楷書とは丁寧な文字のことですが、なぜ楷書で書けるようにするかといえば、それができないと試験の時などに不利益になるからです。読めないような文字では、落とされてしまうこともあります。ですから、普段から楷書で書くことを身に付けておきましょう。また、「定着」のためには膨大な時間が必要ですから、短い時間、小間切れの時間も有効に使うことが大事です。このようにすれば、一度「うん、なるほど」と「理解」したことが「定着」して、よい成績に繋がります。そして、それにより素晴らしい人生を歩むことができるようになります。仕事の場合も同じです。上司に教わったことをきちんとメモに取り、「理解」して身に付ける。これにより仕事がうまくいく。仕事のできない人は、これができていません。

皆さんも、どのように勉強したらよいのか、この放送を通して考えてみて下さい。